

特集

林業に懸ける

林業家だった祖父への思い、新しい家族の誕生、
内子町の林業をさらに元気にするために——
今月号は、たくさんの思いを胸に林業に懸ける
地域おこし協力隊・武田惇奨^{しゅんすけ}さんの特集です。
その3年間の活動から内子町の林業の未来を考えます。

Photo by おだいじPROJECT 水本誠時^{せいじ}
(特集内の写真提供：内子町森林組合、水本誠時)

林業×地域おこし協力隊

「若い世代や山から離れて生活している人たちに、木と林業の魅力を伝えたい」と、3年前に内子町の地域おこし協力隊になった武田惇奨さん。前職の広告代理店での経験を生かしながら、内子町の林業に新しい風を吹き込みました。3月に任期を終える武田さんに、改めて林業への思いと、3年間の活動について聞きました。



広告業界から林業界へ

「60年もかけて育てた杉が、1本たったの6000円——」。4年前、福岡県の広告代理店に就職していた武田さんは、山の現状を知ろうと参加した林業ツアーで、その事実を知り、がくぜんします。「じいちゃんは家庭のために山を大切に育てていた。家に飾られた、たくさんのお木にまつわる賞状を見て、そのすごさを感じていた」と武田さん。旧広田村で林業をしていた亡き祖父の姿と、幼いときに遊んだ祖父の山が、自然と思ひ浮かびました。

林業界は木材の価格が低迷し、担い手も減っています。武田さんはツアーで林業の困難な現状を知る一方で、参加者の「伐採体験に料金を払ってもいい」という言葉で、森林の見方が変わったと言います。「木を生産し販売するのは重要だけど、エンターテインメントとして見る林業をはじめ、森林との関わり方はさまざま」と、新しい林業のイメージが膨らみます。広



4年前、武田さんが参加した福岡県の林業ツアー。伐採体験で盛り上がる参加者

告代理店で働き続けるという選択もありましたが、「広告業界は人気で、思いのある若手であふれている。自分のルーツを考えたと、代わりの多い広告業界よりも林業や木材業界にこそ使命がある」と、転職を決意しました。いタイミングで林業6次化をテーマにした仕事を見つけて応募。それが内子町の地域おこし協力隊（以下、協力隊）でした。

切らない林業家の「卒業」

武田さんが内子町に来て感じたのは、この町の林業は元気で、関わる若者も多いということでした。「協力隊としてやるべきことが林業そのものではなく、山や木の魅力を伝えることだとすぐに分かった。広告代理店の経験を生かして、木を切らなくてもできることで林業に貢献しよう」。その発想で生まれたのが「禁業」。山と人々の間にある禁のような位置で、山や木と人との接点をつくる仕事です。

武田さんは「山や木に触れるこ

と自体が減り、林業の価値が伝わりづらい時代。一般の人が生活に木を取り込むのは、かなりハードルが高い」と説明します。まず考えたのは、生活空間に取り入れやすい形の商品を作ることでした。大切なのはライフスタイルに合っていることと女性も扱えること。アロマオイルや持ち運びしやすい家具など、男性の多い林業界だからこそ女性の視点を大切にする商品開発を進めています。「女性からの情報発信が増えれば、林業の入り口も広がる。禁から山や林業の魅力を多くの人に伝えたい」と思いを語りました。

林業×ファブ



釘や接着材を使わない組み立て式の家具「Uchi&Co」

デジタルファブリケーションという技術を使い、コンピューター制御で家具を作っています。大工の伝統技術を応用した家具は、組み立て・取り外しが自由。持ち運びに便利です。



林業×香り



ヒノキの消臭スプレー「アントキノヒノキ」

内子産のヒノキの葉と枝からアロマオイルを抽出し、スプレーにしました。爽やかな香りでリフレッシュできるほか、衣類などの消臭にも効果があります。



アロマオイルを抽出しているスタッフにインタビュー
好きな仕事が林業につながって——

大久保志緒莉さん

Interview



仕事を始めて、まだ2カ月です。ヒノキのいい香りに癒されながら楽しく働いています。松山市に住もうと考えていましたが、この仕事に出会えたので小田に残ることにしました。アロマを製油するところからできるのは貴重な経験。アロマセラピー検定の勉強をしながら働けるのも魅力です。正直、まだ林業に関わっているという実感がありません。機会があれば現場にも行ってみたいです。

標高1000^{メートル}で1000人が交流するイベントへ

「ワンツーツリーフォレスト」が山と人をつなぐ

林業×交流



1_ スギの伐採を実演。迫力満点の場面の後に、倒れた木に集まる観客 2_ ボランティアで物販を手伝う小田高校生 3_ のこぎりなどで切った木を運ぶとジュースがもらえる。木材搬出を疑似体験する「こどもきこり市場」 4_ 心地よい森の中でスラックラインを楽しむ 5_ 林業の現場で使っている重機に乗れる「丸太積み」。貴重な体験に子どもも大人も大喜び



子どもたちに山での思い出を

毎年8月に開催される「ワンツーツリーフォレスト」(以下、ワンフォレ)は小田深山で林業を体験する学習イベントです。きこり体験や林業重機を使った丸太積み、森の中でハンモックなどの森林浴を楽しめます。平成29年には「ウッドデザイン賞」を受賞。昨年は町内外から約850人が来場しました。

3年間の協力隊活動で、このイベントへの思い入れが一番深いという武田さん。「今の自分があるのは、じいちゃんとの楽しい思い出が山に詰まっているから。『子どもたちにもスマホだけでなく山や森を見てほしい、そこで楽しい思い出をたくさん作ってほしい』という思いに10数団体が賛同してくれて、このイベントは生まれた」と振り返ります。

団体だけでなく、小田高校の生徒がボランティアで協力してくれたり、森林を守る仕事をしたという西条市の高校生が参加してくれたり、多くの人がつながるイベントになりました。「一緒に目標に向かって、『やるぞ』という人たちのつな

がりが強くなった。それが大きな成果」です。

山とのつながりを産む交流

ワンフォレは山や林業の日常を知らない人にとっては非日常のエンターテイメントで、山につながる入り口。イベント内容をさらに磨いて1000人以上の来場者を目指すと同時に、定期的に山での暮らしや文化に触れられる機会を提供し、山の暮らしのファンを増やします。

「ワンフォレの体験が山での楽しい思い出となって残ってほしい」「子どもたちの人生の中で、いつか山や森を思い起こす瞬間をつくりたい」。関係者のその思いがワンフォレを魅力あるイベントにし、山と人をつなぐ交流の場として大きく成長させています。

Interview / イベント開催に全面協力して



学生が、山や森で働く未来の自分をイメージ

林業版インターンシップの「林ターン」で現場体験

学生が職場体験をするインターンシップ。それを林業現場でするのが「林ターン」です。武田さんと林業界の有志で、2年前に始めました。昨年11月には、愛媛大学の学生・約20人が参加。1泊2日で伐採現場から木材市場まで、木材の流れとそれに関わる仕事を学びました。有志たちと地元料理を囲みでの交流や、デジタルファブリケーションのイス作りなど、林業を深く考える機会になったそうです。

武田さんは「仕事を体験することで林業に対するハードルが下がる。適度に遊びを交えるのも大切で、森林の心地いい空間が仕事場になることや、アイデア次第で使える資源が豊富になることを伝えたい」と話します。参加者には、「自分も山に関わりたい」「小田が好きになった」と、また訪ねてくる人もいます。武田さんは「この地域が職場でも憩いの場でもいいので、多くの人のよりどころになればと思う。職場体験を通じて移住する『林ターン』も増やしたい」と思いを語りました。

林業×職場体験



1_ 初めて行った「林ターン」に参加した学生たち 2_ 木材の重さを体で感じる。間伐材に価値がなければ、山に放置されて荒れる原因になることを学ぶ 3_ 重機を使って林業の仕事を体験 4_ 伐採現場の見学。立木の伐倒から枝払い、造成までできる高性能な機械に驚く 5_ デジタルファブリケーションの仕組みや使い方を説明する武田さん



「切らない林業家」と、山と林業の未来を切り開く

木を切らない林業家の話を聞いたとき、面白いと思いました。実際、武田さんのフットワークの軽さや発信力、新しいアイデアは林業の力になっています。森林組合も林業の「見える化」に取り組んでいます。山で仕事をしながらの情報発信は難しいと感じていました。

ワンフォレや林ターンなどの取り組みは、山や森を見直すきっかけになることが一番の魅力です。多くの人に

山にはすごい価値があることを知ってもらえたら、林業がもっと元気になると思います。

私たちの町の山は、昔の人たちのとんでもない夢と希望でできています。これを今から作れと言っても簡単に作れるものではありません。この大切な資源を守り育て、価値を高めていくために、私たちも林業の魅力をどんどん引き出していきたいです。

内子町森林組合参事 大鍋 直幸さん

木育 × プログラミング教育

MOCKUP

参加費無料
春休み

プログラミング教室 親子体験教室

プログラミング教育の面白さを感じてみませんか。そして、内子町の林業の今を学びませんか。

●日時 3月28日(土)、4月4日(土)
午後1時30分～3時30分

●場所 内子町内(詳細は後日、ホームページでお知らせします)

●対象 小学新1年生～新6年生

●定員 10人(先着順)

※保護者同伴でご参加ください。

●申込方法 電話またはホームページからお申し込みください。

【申込・問い合わせ】

☎080(4613)3668(武田)

MOCKUP内子教室

毎週木曜日は
モックアップ

受講生を募集中

山を題材にしたゲームやロボットのプログラミング、林業の楽しさを体験できる課外授業を行います。詳細はホームページでご確認ください。



◀ MOCKUP

📄 <https://mockmock.jp/>
QRコードをスキャンすると簡単にホームページを見られます。



理解できるようになることです。産業のIT化が急速に進み、人口減少に対応するため林業・木材業界もIT視点で考える時代です。武田さんは「子どもたちには『仕事』はイメージしづらい。ゲームやロボットなど子どもたちの好きな分野に入口を作ること、自然と林業への興味を持つてくれるのが理想。内子町でも森林教育がさされていて、シイタケの植菌や木工体験の機会はある。IT視点で林業に触れる企画をモックアップで提供し、森林教育のアップデートをする。そうして未来の林業に可能性を残していきたい」と力を込めました。



最新の林業の一端に触れる、トイドローンを使ったプログラミングに挑戦。子どもたちの反応が楽しみ



出前授業では森に親しみを持ってもらおうと、枝などでロボットを工作してから、プログラミングで操作する

林業 ×

小学校で
必修化

プログラミング教育

子どもたちのために最新の教育をしたい——。そんな思いから、プログラミン教室「モックアップ」は始まりました。「2019年度グッドデザイン賞」を受賞するなど、注目が集まる林業版のプログラミング教育を紹介します。

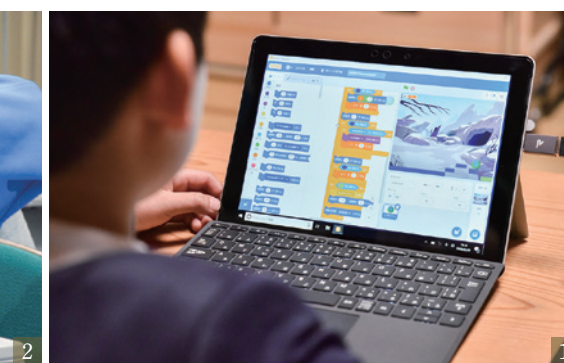
始まるプログラミング教育

2年度からプログラミング教育が小学校で導入されます。プログラミング技術の習得自体が狙いではありませんが、「コンピューターに意図した処理を行うよう指示することができると」を体験しながら、論理的な考え方や、問題の要素を分解して考えることなどを学ぶそうです。

武田さんは、その導入に先駆け、2年前から「モックアップ」というプログラミング教育と木育を掛け合わせた教室を始めました。「プログラミングだけでなく都市部でもできるから、山間部だからこそできる学びを提供したい」と、木工ロボットや山を教材にしています。春休みの無料教室では、ドローンをプログラミングで操作する予定。武田さんは「林業の現場ではドローンを活用する場面が増えていて、教室では小さいドローンで苗木を運ぶ仕事を疑似体験する。内子の未来を感じる教室になると思うので、ぜひ参加してほしい」と呼び掛けます。

プログラミングと林業

プログラミング教育のいいところの一つは、システムの仕組みを



1_プログラミングの画面。コンピューターへ命令を送るための言葉が並んでいる。この日の教室では簡単なゲームを作っていた 2_平成30年に開かれたモックアップ。ロボットを動かすプログラミングに挑戦する子どもたち

Interview / 内子に移住してモックアップの講師に



子どもたちの成長を見られるのがうれしい

モックアップ教室講師 沼田 桃佳さん

東京でプログラマーをしていました。2月から武田さんの会社に就職し、モックアップやプログラミング教室などを担当しています。

プログラミングをすると論理的思考が学べます。モックアップのように仲間と一緒に学ぶことで、考える力の他、伝える力や聞く力も育まれ、コミュニケーション能力も向上します。山

や住民、仕事とのつながりも感じることができ、すてきな取り組みだと思いました。

教室では挑戦と失敗を繰り返すので、達成感や成功体験を積み重ねることができます。「分かった!」という子どもの表情は生き生きとしています。ここからどんな子が育つのか、関わりながら成長を見守れるのが楽しみです。

Interview / プログラミング教室に参加して



源田 大空くん

プログラミングが大好きに

5年生のときからモックアップに参加しています。初めてプログラミングを知り、すごく興味を持ちました。ロボットが思った通りに動かなくても、どこがおかしいか考えて、直せたときがうれしいです。もっと勉強して、いろいろなことができるようになりたいです。



名本 裕子さん
(ときまさ、賢齊くん)

教室で世界を広げてほしい

想像力が豊かで、考えることや作ることが好きな子どもたち。初めてモックアップに参加したときも楽しそうだったので、得意なことや好きなことで世界が広がればいいと思います。プログラミング教室を通じて自分のやりたいことを見つけてほしいです。

林業×未来



3年間の感謝と内子町の林業への思いを込めて

武田 惇奨さん

内子町の地域おこし協力として活動した3年間、いろいろな旗を掲げて振り回してきましたが、賛同してくれた皆さんに感謝の気持ちでいっぱい입니다。

林業界や木材業界は他の業界との関りが少ないので、既存のものとなげること活動の中心としていました。最近では森林サービスとして、木を植えてから伐採するまでの期間に森林空間を活用して、山村の収入につなげようという動きが活発になっています。例えば、森林空間でキャンプなどの「観光」をしたり、森林セラピーのように「健康」を考えるフィールドとして利用したり、モックアップのように「教育」の舞台として使うこともできます。森林がたくさんさんの業種と結び付くことで、新しい可能性が見えてくると思います。

3年間の活動で、改めて林業家の皆さんに尊敬の念を抱

きました。大変な仕事を続け素晴らしい森や山をつくっています。内子町で迎える4年目は、自らも木を切る林業家を始めたいと考えています。大先輩の皆さんには何十年かけても追いつけないことは分かっていますが、実際に林業をする中で本質を知り、理解を深めたい——そして皆さんと悩みを共有しながら林業・木材業の未来を一緒に考えられたらと思います。

内子町の森林は面白いです。林家が育て、企業や組合が支えた山。小田深山のような心地いい空間。遊び、仕事、学び、暮らし——どの視点で見てもかっこいい森林が内子にはあります。そんな森林が未来へも続き、林家と山仕事に携わる皆さんの気持ちが高まる話題を提供したいです。

「森のめぐみを、てっぺんからふもとまで」。山と人との間、桤から林業の下支えをし、山林の魅力をてっぺんからふもとまで見通し、皆さんの元まで届ける。林業の未来を紡いでいく。そんなチャレンジをこれからも、この内子町で続けます。